



# 壬生町政だより

住民登録人口			
昭和46年3月1日現在		対前月比	
総人口	25,920人	35人増	
男	12,801人	23人〆	
女	13,119人	12人〆	
世帯数	5,722世帯	7世帯増	

発行所 栃木県壬生町役場 (毎月24日発行) 昭和34年9月30日第 1種郵便物認可 一部 5円60銭

この一票くらしと政治にかける橋



## 稲中の体育館が完成

町立稲葉中学校に、昨年十月から工事が進められておりました体育館建設がほどど完成し、その落成式が二月二十四日午前十時から体育館内で行なわれました。

式には、町長はじめ、町議会議員、同校PTA、請負者、それに生徒全員が集って盛大に行なわれました。

この体育館は、管内の小中学校のうちで第一番目とあつて、地元でも大変喜んでいま

同校では、校庭も狭く、各種の運動ができなく、道路を渡つて第二グラウンドとして民地を借用して運動場を使用している現状です。

このため、いろいろな運動ができるようにとこのたび体育館が建設されたものです。

体育館は、校庭の裏側に位置し総面積六一八平方メートル、構造は鉄骨タイモンドシエル、屋根はバルーフ、外壁はバネルで総工費一千七百五十万円をかけて完成しました。

この建設にあつては、設計者市坂設計事務所と請負業者の株式会社斎藤組(小山市)が協力されました。この体育館が完成したことによって今後、屋内でできる競技はすべてが設備され、雨天でも運動ができること先生、生徒たちは喜んで

### 4月の納税

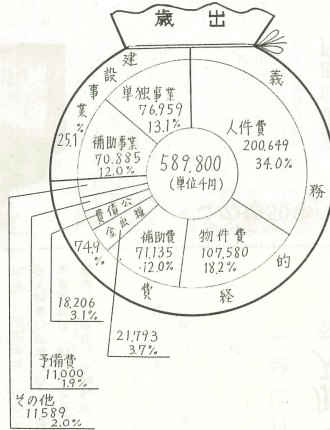
お忘れなく  
固定資産税 第1期分  
軽自動車税 全期分

### 歳出予算と内容

一般会計予算の歳入歳出は、右のグラフのとおりですが、目的別用途の内容はおおむね次のとおりです。

- 1 議会費 16,979千円  
議員30人(現在28人)の議会活動に要する経費で特に昨年からは始めました議会の広報紙「議会だより」の発行経費が続いて計上されています。
- 2 総務費 113,477千円  
今こうして説明しています町の予算を中核的にとりまとめ町を管理していくための経費が盛り込まれています。内容的には、「町政だより」の発行や職員の給料、交通安全対策、町税の賦課、収納などに要する経費、各種の選挙に要する経費、各種の統計として交通災害加入促進の経費および窓口サービスに要する経費が含まれています。
- 3 民生費 47,255千円  
みなさんの生活福祉を目的とする項目で、民生委員関係、生活保護、保護司会、母子福祉の助成。また、関係条例改正により高齢年金が77歳で支給される経費それに国民年金の事務的経費のほか老人憩いの家、母子健康センターおよび保育所の維持管理費や生活に困っている人における扶助費が含まれています。
- 4 衛生費 53,994千円  
環境衛生の向上のために、カヤハエを駆除する薬剤散布、危険物の収集に要する経費、また、じん芥処理し尿処理の経費、そのほか伝染病予防のために行う各種子接種に要する経費が計上され、また、上水道の施設に要する補助が含まれています。
- 5 労働費 862千円  
町勤労者協議会や県労働者福祉センター建設などに対する助成金が含まれています。
- 6 農林水産業費 27,516千円  
今、全国的に社会問題となっています米生産調整は本町でも農家にとって頭の痛い問題です。本年度は特にこの米生産調整換作推進対策をはじめ、農免道路事業、県単土地改良事業に要する経費であります。そのほか、毎年実施しているところの農業航空散布事業や野そ稔除、家畜関係の経費およびアメリ防除事業の経費が計上されています。また、本年度から実施する「農業者年金制度」の事務的経費が計上されています。
- 7 商工業費 3,602千円  
商工業の振興、特に金融機関との取引が薄い方々の内、特に資金を必要とする企業に融資する小口資金制度を中心とした内容で、そのほか、公害対策に力を入れ、それに要する経費が計上されています。
- 8 土木費 138,476千円  
要望の多い道路舗装や改良工事など道路事情の改善のほか、橋梁新設、改良、都市計画などそのほか、特に本年度は、東堂橋東側に45年度から継続事業として着手している児童公園の建設に要する経費および公営住宅の建設に要する経費が大きく注目されます。
- 9 消防費 32,652千円  
消防団活動の通常経費のほか設備補充のため、防火

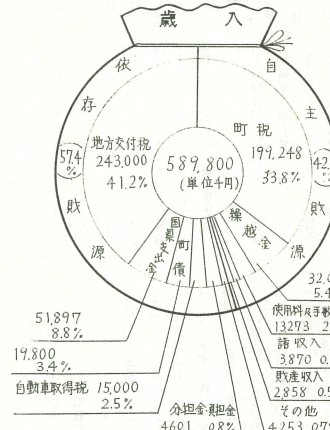
## 予算額 5 億



水防工事、消火栓設置工事、水防倉庫建設工事に要する経費が計上されています。また、常備消防として45年度から発足した石橋地区消防組合に対する助成金も含む。

- 10 教育費 125,419千円  
学校建設費で東小のプール建設および同校の校庭拡張用地購入と壬生中の体育館建設に要する経費が新たに計上され、本年度の大きな事業の一つであります。そのほか、45年度から編集を始めた「壬生史観」の作成の経費と青年団、婦人会、各種団体の助成費も加わっています。
- 11 災害復旧費 4千円  
少額の経費が計上してありますが、万一の時には必要な経費を流用することになります。
- 12 公債費 18,213千円  
町の行なった多くの事業のうち、その資金の一部を大蔵省、郵政省、県などの機関から融資を受けたもの返済元金、利子です。
- 13 諸支出金 351千円  
土地の取得費、有価証券などの取得に要する経費すなわち財産取得費として計上しました。
- 14 予備費 11,000千円  
ある費目でどうしても必要な経費が生じた場合にこの予備費から充当するために確保されている経費です。

## 8 千万円に



- 15 国民健康保険  
国民健康保険事業の新年度の予算総額は、一億二千万円で前年度に比べて四千七百円上廻っております。歳入を申しますと、保険税四五・九%、国庫支出金五四・〇%で歳入の九九・九%を占めている。歳出面では、みなさんが医師にかかった時に七割給付される保険給付費が全体の九二・九%を占め、次に事務に要する経費が五・二%、疾病手当などの経費が一・九%が主なるものです。
- 16 水道事業  
町の施設整備の一環として、水道事業を行なっています。この水道事業の新年度予算は、取益的と資本的のわかれ、取益的では、収入および支出とも三千四百三万二千四百九十九万二千円、支出が一億八千八百八十八千円となりまして、

**一般会計**  
昭和四十六年度の一般会計の予算総額は、歳入歳出ともに五億八千九百八十九万四千円、前年度の当初予算総額に比べ、歳入は五億五千五百五十万五千円、歳出は五億八千九百八十九万四千円と、前年度を大幅に上回る六千にのりまして、これら予算は昨年と同様に健全財政をめざして積極策が遂行されてゆく訳ですが、その予算概要をお知らせします。

三月定例町議会に提出された昭和四十六年度の一般会計、特別会計予算は、三月八日に上提され、委員会付託の後、三月十五日の本会議で議決がなされました。本年度の当初予算は、五億八千九百八十九万四千円と、前年度を大幅に上回る六千にのりまして、これら予算は昨年と同様に健全財政をめざして積極策が遂行されてゆく訳ですが、その予算概要をお知らせします。

千九百八十九万四千円、前年度の当初予算総額に比べ、歳入は五億五千五百五十万五千円、歳出は五億八千九百八十九万四千円と、前年度を大幅に上回る六千にのりまして、これら予算は昨年と同様に健全財政をめざして積極策が遂行されてゆく訳ですが、その予算概要をお知らせします。

歳入歳出の内訳については、グラフのとおりです。まず歳入をみますと、自主財源が全体の四二・六%を占めており、それは対し、依存財源は五七・四%となっております。歳入の主な内容は、地方交付税が四一・三%、町税の三二・八%、国庫支出金の八・八%、繰越金の五・四%が大きな歳入となっております。歳出では、義務的経費として全体の七四・九%を占め、そのうち人件費の三四%、物件費の一八・二%、補助費の二%が大きく占めています。一方建設事業経費として、単独および補助事業を併せて五・一%を占めます。その内容をみると、土木事業で町道の舗装、道路改良、そして児童公園建設事業など、建設および壬生中学校の体育館の建設。農業関係で農免道路改良事業および土地改良事業などが本年度の注目の的です。

昭和46年度の特別会計

会計区分	千円	
	本年度予算額	前年度予算額
国民健康保険	202,000	161,230
公共下水道	26,277	24,241
水道事業	214,840	96,730

# 今年の町の台所は



お知らせ



集団予防接種が再開

昨年十一月九日より県医師会が予防接種をしばらくの間延期することが決定されたため、予防接種が受けられなくなっておりましたが、郡市医師会と壬生町長の限定書を取り交しにより、二月二十六日より再開することになりました。

たまたま準備中ですが、この協定は事故防止と事故発生の場合の救済措置が主なためです。したがって、従来より接種の方法が変わりますので、保護者または該当者は町からのお知らせの通知書や注意事項などをよく理解され、予防接種を受けられるようお願いいたします。

妊婦検診

金妊婦が該当します。
○とき 四月二十三日
○ところ 母子健康センター
時間は、午後一時三十分～一時三十分

廃犬引き取り日

廃犬は、はなさない、廃犬引き取り日を出してください。

○日程 四月十四日、二十八日
○場所 および時間
役場本庁 九時三十分まで
南大前交差点 四十十分まで
稲葉支所 十時まで

乳児検診

昭和四十五年四月一日以降に生まれたお子さん。
○とき 四月二十一日、二十二日、午後一時二十分

二時三十分
南大前公民館

○ところ 南大前公民館
該当する地域は、
二十一日 北小林、上田、中泉、助谷、助谷原、国谷(一)、国谷(二)、国谷(三)
二十二日 北小林、上田、中泉、壬生アバウト、東武第二回地、東武第一、第二、第三、安塚(一)、安塚(二)、上長田

善意銀行

羽生田北原の藤原正道さん(義生田西の交通事故現場に出合)
そこで意識不明でいる藤田の金田さんを長崎病院まではこんでくれました。
その後、金田さんは、謝礼として金二、〇〇〇円を贈りましたが藤原さんは、このお金を交通安全関係の事業の一部として役立たせてくださいと寄付されました。

人事消息

▽退京(二月三十一日付)
海老沢武子(総務課)
二月二十八日付
国生後道(民生課)
▽採用(二月一日付)
総務課 大垣代志子
民生課 大島 節子

松本徳太郎氏死去

前町議会議員の松本徳太郎氏は二月二十六日午後五時四十分、脳血管症のため、宇都宮市の済生会病院で死去されました。七十七歳。告別式は、二月二十八日午後一時から自宅で行なわれました。松本氏は、昭和十七年五月から昭和四十二年十月まで、町議会議員に就任し来約二十一年間の永年になつて住民の福向上に活躍されました。

中との昭和三十九年十月から昭和三十九年十月まで議長を務めました。昭和四十年三月から同年十一月まで議長とし、議会の運営に貢献されました。
そのほか、町監査委員、町開発委員、町身体障害者福祉会長、町保健委員会長など数々の役歴に大変貢献されました。
また、栃木都賀小売酒販組合理事、おがみ栃木煙草販協同組合幹事などを現職中でした。
なお、故徳太郎氏の次男光雄さんと、故徳太郎氏に送られ、大阪の石田三成の墓に送られ、大阪京極口にさらされた。



125

元忠と伏見城

伏見城が落城したのは慶長五年八月一日のことであった。攻防の激戦は十三日続き、城兵三千は内、四連では四万の内、三千の損害を生じた。
戦の後元忠等各部隊の首は、攻陣の總大將小早川秀秋の手によって、大阪の石田三成の墓に送られ、大阪京極口にさらされた。



元忠の首は、城主の故を以て、特に三宝の上にとさらされた。
元忠の恩顧の衣服は、京の町人佐野四郎衛門はこれを開き、いそぎ大阪に送り、番人をすかして、元忠の首を盗み、終夜京都に走り、弟が京の百万遍(寺号を智恵寺という。智恵院にあらず)の僧であったのを幸い、ここに密に葬った。
後首盗人の詮議がはげしくなつたので、いづれは事のあらわれるを恐れ、佐野は石田のもとに目白

した。石田は佐野の節義の勇に感し、その罪をゆるした。
京都百万遍智恵寺は京都大学の裏にあり、ここは元忠の墓の外伏見で元忠に殉じた土士五十八人の位牌が祭られている。
後に元忠の子忠政が城下の平城主に封ぜられるや、忠政は父元忠の供養のため、長壽寺を創建し寺額百石を寄進した。この寺に於ける元忠の法号は、清流院殿潤室長源大居士という。
白眉氏が壬生城主となつてからも、城の西北に長壽寺を建てたが今はない。
尚壬生城の西北には、元忠を祀る精忠神社(現昭和三十九年六月、吉田家の執奏によつて精忠神社の神号を賜わ)がある。御神体は元忠が伏見城で割腹した時、着用していた血染の肌着である。
(このいわれについては、すでにこの史稿に記述した)掛塚がある神社の祭礼は、元忠葬の日旧暦八月一日であったが、今は新暦におおして九月八日に行なわれている。
長い間、要諦ありがとうございました。尚この史稿は修正の上、町で単行本として発行する予定です。(福田)